

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成17年度病虫害発生予報第3号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成17年度病虫害発生予報第3号（6月）

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成17年比)	発生予想 (平成17年比)
水稲	ツマグロヨコバイ 萎縮病 ヒメトビウンカ 縞葉枯病	並 - 少ない -	並 並 少ない 並

【普通作物 - 水稲】

1 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年並

(2) 予報の根拠

5月5半旬のすくい取り調査（片振り20回、以下同じ）の結果、成幼虫数は畦畔で0.1頭（平成：1.0頭、前年0.1頭）、休閑田で1.1頭（平成：2.7頭、前年：1.0頭）、小麦田で0頭（平成：0.2、前年0.3頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 萎縮病の常習発生地を除き、防除の必要はない。

イ 防除薬剤は「平成17年度普通作物病虫害防除の手引き」を参照する。（以下の病虫害についても同じ）

2 萎縮病

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年並

(2) 予報の根拠

ア ツマグロヨコバイの越冬世代におけるイネ萎縮ウイルス保毒虫率は0%（平成：0.3%、前年：0.3%）であった（詳細は平成17年度病虫害発生予報第2号参照）。

イ 5月5半旬のすくい取り調査の結果、ツマグロヨコバイの成幼虫数は平成並であった。

3 ヒメトビウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬のすくい取り調査の結果、成幼虫数は畦畔で0.2頭（平年：0.1頭、前年：0.1頭）、休閑田で0.3頭（平年：2.6頭、前年5.7頭）、小麦田で5.1頭（平年：42.2頭、前年62.1頭）であった。

4 縞葉枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア ヒメトビウンカの越冬世代におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は6.0%（平年：1.3%、前年：4.0%）であった（詳細は平成17年度病害虫発生予報第2号参照）。

イ 5月5半旬のすくい取り調査の結果、ヒメトビウンカの成幼虫数は平年より少なかった。

(3) 防除上注意すべき事項

本田初期における感染防止対策として箱施薬が有効である。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 黒点病 ミカンハダニ アブラムシ類	少ない - やや多い 多い	少ない 並 やや多い やや多い
ナシ	黒星病 ハダニ類 アブラムシ類	並 並 並	並 並 並
ブドウ	べと病 黒とう病 晩腐病	- やや少ない -	並 やや少ない やや多い
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	並 並 やや多い -	並 並 やや多い 並
イチジク	アザミウマ類	やや多い	やや多い
果樹共通	カメムシ類	少ない	少ない

【果 樹】

1 カンキツ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 前年10月2半旬調査の結果、発病果率は9.1%（平年：9.8%、前々年：9.2%）、発病ほ場率は68.8%（平年：23.1%、前々年：66.7%）であった。

イ 6月の気象予報では平均気温及び降水量は平年並と予想されている（以下の病虫害についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる枯れ枝を除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mmを目安に降雨の間をぬって薬剤散布を行う。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

5月5半旬調査の結果、寄生葉率は15.6%（平年：11.0%、前年：18.1%）、発生ほ場率は82.4%（平年：45.7%、前年：70.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 高度精製マシン油乳剤は、高密度時には十分な効果が得られないので、発生密度が高くなる前に散布する。また、落花期以降にデラン剤を散布した園地は使用しない。
- イ 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- ウ 同一系統薬剤使用による薬剤感受性の低下を避けるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する（以下の病害虫についても同じ）。

3 カンキツのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

5月5半旬調査の結果、寄生新梢率は13.3%（平年：5.2%、前年：1.1%）、発生ほ場率は76.5%（平年：61.2%、前年：41.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生量が多くなると、スス病が発生したり、果梗部が加害され落果することがあるので早めに防除する。

4 ナシ黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発病果率は0.4%（平年：0.4%、前年：0.3%）、発病ほ場率は21.4%（平年：13.6%、前年：13.3%）であった。

イ 6月の気象予報では平均気温及び降水量は平年並と予想されている

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地等一部地域では発生が多いので、園内をよく観察して防除を行う。

イ 発病葉や発病果実は発生源となるので、できる限り取り除き処分する。

5 ブドウべと病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 前年8月5半旬の調査結果では、発病葉率は9.3%（平年：9.1%、前々年：16.4%）であった。

イ 気象予報では6月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は、効果が低いので予防散布を徹底する。

イ 罹病葉及び罹病果は発生源となるので、できる限り取り除き処分する。

ウ ボルドー液の散布は、降雨直後の雨滴や散布直後に降雨があると薬害が発生するので注意する。

6 ブドウ黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

5月5半旬調査の結果、発病葉率は0.4%（平年：1.2%、前年：0.1%）、発病ほ場率は15.4%（平年：25.7%、前年：7.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 罹病葉及び罹病果は発生源となるので、できる限り取り除き処分する。
- イ 発生園は早めに袋かけを実施する。

7 ブドウ晩腐病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

越冬菌からの一次感染は、降雨によって枝が十分に濡れ、平均気温が15位になると始まる。4・5月の降雨量が平年・前年より少なく、現在までの孢子の飛散量は少ないと思われ、梅雨時の降雨により飛散量が多くなることが予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 降雨が多いと、越冬菌からの一次感染が多くなるので、早めに袋かけを実施する。また、降雨により果房が濡れている時は袋かけをしない。
- イ 感染後の防除は、効果が低いため予防散布を徹底する。

8 カキ炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発病枝率は0.8%（平年：0.8%、前年：0.5%）、発病ほ場率は31.3%（平年：23.6%、前年：37.5%）であった。

イ 6月の気象予報では平均気温及び降水量は平年並と予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 罹病枝は発生源になるので、できる限り取り除き処分する。
- イ 発病枝の多い園では、降雨により感染が拡大するので薬剤防除を徹底する。

9 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

5月5半旬調査の結果、寄生枝率は1.9%（平年：1.8%、前年：1.8%）、発生ほ場率は76.5%（平年：37.6%、前年：43.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 第1世代幼虫出現期の6月上旬と更にその約10日後に防除を行う。
- イ 枝の重なり合っているところは薬剤がかかり難いので、防除を行う前に枝の整理を行う。
- ウ 本虫は、薬剤がかかり難い部位に多く寄生しているので、散布むらのないよう十分な薬量で丁寧に防除する。

10 イチジクのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月1半旬～5半旬までの誘引剤（農業総合試験場豊前分場）での、誘殺虫数は3,524頭（平年：1,200頭、前年：1,879頭）であった。

イ 6月の気象予報では平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

園地周辺の畦畔等で、6～8月に開花する雑草でも発生するので除草に努める。

11 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 5月1半旬～5半旬までの予察灯（県内6カ所）でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は4頭（平年：427頭、前年：1,719頭）、ツヤアオカメムシの誘殺虫数は1頭（平年：158頭、前年：274頭）であった。

イ 同時期の集合フェロモントラップ（筑紫野市吉木）でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は79頭（平年：1,458頭、前年：4,158頭）、ツヤアオカメムシの誘殺虫数は0頭（平年：342頭、前年：248頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 園内をよく観察し、発生に応じて他の害虫との同時防除を行う。

イ 越冬量が少なく、ヒノキの球果の結実は多く、本年の発生パターンは後期発生型（8月～10月）と予想される。

ウ 果樹カメムシ類の発生状況は病害虫防除所ホームページに掲載しているので参照する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病 もち病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	並 並 多い やや多い 並 多い	並 並 多い やや多い 並 多い

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬調査の結果、発病葉数は0葉（平年：0.2葉、前年：0葉）であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている（以下の病虫害についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 二番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに薬剤防除を行う。

イ 雨滴により胞子が飛散伝搬するので、降雨前の防除が効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 もち病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

5月2半旬調査の結果、発病葉数は0葉（平年：0.2葉、前年：0葉）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

二番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに薬剤防除を行う。

3 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

5月2半旬調査の結果、寄生葉率は6.5%（平年：5.8%、前年：9.8%）で、50葉当たり寄生虫数は平均13.2頭（平年：15.3頭、前年：18.3頭）であった。

5月5半旬調査では、寄生葉率は11.4%、50葉当たり寄生虫数は平均43.8頭となっている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

4 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年並

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 越冬世代成虫の発蛾最盛期は、筑後市は4月5半旬、八女市は4月6半旬で、平年並である。

イ 5月2半旬調査の結果、被害葉は0葉（平年：0.0葉、前年：0葉）であった。

ウ 4月1半旬～5月2半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。

筑後市 410頭（平年：372頭、前年：304頭）

八女市 931頭（平年：360頭、前年：197頭）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第1世代成虫の発蛾最盛期は、平年並と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 巻葉後は防除が困難となるため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

5 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

5月2半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均0.0頭（平年：0.2頭、前年：0.4頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で4頭以上発生している場合は防除を行う。

6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

5月2半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均15.6頭（平年：4.3頭、前年：5.4頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で10頭以上発生している場合は防除を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平 年 比)	発生予想 (平 年 比)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 鱗翅目類	少ない 並 並 並 並	少ない 並 並 並 並
ネギ	シロイチモジヨトウ	並	並

フェロモントラップによる誘殺

アスパラガスのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、寄生株率は15.6%（平年：12.9%、前年：8.3%）であった。

イ 6月の気象予報では、平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

6月の気象予報（1か月）

（予報期間5月28日～6月27日）

2005年5月27日

福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	30	40	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 5月28日～6月3日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 6月4日～6月10日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 6月11日～6月24日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
22.2	238.4	162.2	20.9	21.8	22.8

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jppn.ne.jp